

32. 新しいネキリムシ駆除法

— BHC 水和剤によるネキリムシ駆除試験 —

鹿屋営林署 柿木 司・福光 定人
松原嘉三衛・川田 政彦

はじめに

永い間、苗木に大害を及ぼして、養苗家を悩ましていたネキリムシも、数年前から BHC 剤を苗床に混入する事によつて、大部分征伐する事が出来る様になつたのであるが（昭和 29 年 2 月号林業技術参照）、いまだに敗残兵が相当出没して、相当ネキリムシによる枯損のある事は遺憾である。

そこで私共は、もつと徹底して駆除する方法はないものかと、色々考えて次の方法をやつてみた所、予期以上の成果があつたので報告する。

その方法は第 1 表の通りである。

第 1 表 BHC 水和剤の施用要領

1. 試験場所	鹿屋市鹿屋苗畑
2. 樹種	ヒノキ 1 回床替
3. 施行月日	31 年 5 月 17 日
4. 調査月日	第 1 回 30/8 月 第 2 回 29/9 月
5. 使用薬剤	BHC 水和剤 1% 反当 8.5kg
6. 施用方法	BHC 水和剤 100g を水 1 斗に 溶かしたものを 1 床（巾 1.2m. 長 20 m）当り 2 斗撒布
7. 施用面積	72床 × 24m ² = 1,728m ²
8. 対象区 （無処理区）	同じ

第 2 表 駆除試験の結果

水和剤使用区								無処理区							
調査区	床替本数	枯損本数			枯損歩合			調査区	床替本数	枯損本数			枯損歩合		
		ネキリムシ	其他	計	ネキリムシ	其他	計			ネキリムシ	其他	計	ネキリムシ	其他	計
1. 1	19,740	99	86	185	0.50	0.43	0.94	1. 2	19,960	1,289	77	1,366	6.46	0.39	6.84
1. 3	20,030	98	110	208	0.49	0.55	1.04	1. 4	19,980	364	129	493	1.82	0.65	2.47
1. 5	20,050	26	60	86	0.13	0.30	0.43	1. 6	19,890	101	76	177	0.51	0.38	0.89
2. 1	19,970	42	41	83	0.21	0.21	0.42	2. 2	19,940	1,074	73	1,147	5.39	0.37	5.75
2. 3	20,000	145	174	292	0.73	0.74	1.46	2. 4	20,000	511	112	623	2.56	0.56	3.12
2. 5	19,950	144	111	255	0.72	0.56	1.28	2. 6	19,950	426	202	628	2.14	1.01	3.15
合計	119,740	554	555	1,109	0.46	0.47	0.93		119,720	3,765	669	4,434	3.15	0.56	3.71

水和剤使用区のネキリムシ被害率は無処理区の 14% 即ち 1/7 である。

次に試験の結果に第 2 表の通りで、水和剤使用区の被害率は、無処理区の 14%、即ち 1/7 である。

又、この駆除法による損益計算は第 3 表の通りであつて、1 反歩当り水和剤使用区は、無処理区よりも 2,265 円の益となる。

以上の通り、このネキリムシ駆除法は相当な効果を納めたのであるが、今後の問題はネキリムシの生態や

加害状況に対応して、実施の時期は何時が最もよいか、分量はどの位がよいか、又どの程度迄やれば葉害を生ずるか等の問題である。

尚、この BHC 水和剤を使用するにあたり注意を要する事は、水溶液が人の皮膚にかかると少しかぶれる人があるから、皮膚にかかるとぬ様に注意する必要がある。

第 3 表 水和剤駆除による損益計算 (反当)

目	水和剤使用			無 処 理			差 引 (損) 益
	数 量	単 價	金 額	数 量	単 價	金 額	
薬 剤	(500g入) 17袋	100	1,700				
人 夫 賃	3.4人	200	680				
苗木枯損	320本	2.50	800	2,178本	2.50	5,445	
計			3,180			5,445	2,265

33. MH 30 の散布がスギ実生苗に及ぼす影響について

人吉営林署 養 原 節 也

目 的

成長抑制剤MH 30 をスギ実生苗1年生に散布する事により、スギ実生苗の秋伸びを防止し、ひいては健全苗を育成し、山床植栽時に於ける活着率を向上させ

ることを目的とした。

ヤクスギ実生苗の成長経過

薬剤を散布する時期を決定するには、先ず床替の成長経過を知る必要がある。第1表はその調査表である。

第 1 表 ヤクスギ実生苗一年生月別伸長及氣象表 (昭和 29 年 4 月～昭和 30 年 3 月)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	全年
苗 長 (cm)	11.4	12.57	15.6	21.8	27.5	33.8	40.1	45.1	48.6	49.8	50.6	50.8	
月 伸 長 (cm)	—	1.17	3.03	6.2	5.7	6.3	6.3	5.0	3.5	1.2	0.8	0.2	
平均気温 (°C)	18.3	21.8	23.8	26.8	27.5	25.2	21.1	18.5	13.2	13.9	12.3	14.0	21.0
雨 量	311	698	988	411	545	506	479	273	97	238	109	336	4,989

毎月 25 日 300 本平均

MH 30 の散布について

第1表で明かなように10月以降の伸長が相当あり、秋伸びの分が徒長型になり易い関係から、10月以降の伸長を抑制する目的で10月5日にユレインサンを散布した。各区100本とし各区とも床替時15cmのもののみ植付け、施肥量は同一とし、各区は夫々3m離

した。

散布量は m^2 当約1合、各個体の表面が一通りしめる程度とした。散布量は濃度を30倍、50倍、100倍、150倍とした。この薬剤散布の結果、全部伸長を停止した。この苗木を3月末掘取り調査した結果は第2表の通りである。

第 2 表 各 処 理 別 形 質 比 較 表

種 別	苗 長	全 重	根 重	枝 幹 重	枝 巾	T. R 率	備 考
無 処 理	56.7	148.5	23.13	125.37	34.7	5.42	苗間16×16cm 苗間14×14cm 各100本平均
MH30 30倍液	39.6	84.07	16.56	67.51	23.1	4.07	
// 50 //	44.5	83.05	14.19	68.86	24.5	4.85	
// 100 //	43.2	91.71	17.72	73.99	25.2	4.17	
// 150 //	42.0	126.0	26.11	99.89	30.7	3.82	
// 200 //	45.8	101.8	25.7	76.10	27.5	2.96	